

2 岩手中部・胆江・両磐圏域「小児医療」に係る連絡調整会議の開催（平成30年12月26日開催）

【胆江圏域における小児医療提供体制の変化】

- 胆江圏域における小児医療の中核的役割を果たしていた奥州市総合水沢病院が平成30年11月をもって小児科診療を休止したことに伴い、胆江圏域の当面の小児医療体制、特に入院が必要な患者さんへの医療提供体制、医療機関間の連携体制について確認が必要。
- 「県南圏域の先生方で集まり意見交換したい。」（地域の小児科先生方要望）

【対応】

- 岩手中部・胆江・両磐圏域の小児医療の現状について、関係者間で状況共有・意見交換を行い、小児医療機関間の連携体制強化を図るため、中部・胆江・両磐圏域の小児医療機関等による連携会議を開催し、対応策等について確認する。

<参集機関（者）>

- ・奥州市・奥州市医療局（総合水沢病院長（小児科長）及び事務局）
- ・各医療圏の小児地域医療センター（小児科長）
- ・県立胆沢病院（病院長及び小児科長）
- ・胆江二次保健医療圏の小児科医院（院長）
- ・中部・奥州・一関保健所
- ・医療政策室
- ・県医療局医師支援推進室

【開催結果（確認事項）】※〔 〕内は対応機関

- 小児地域医療センターは、他医療機関からの依頼があればいつでも紹介患者を診る。

〔各小児地域医療センター〕

- 日中の診療については、診療所と病院が協力し診療にあたる。〔各医療機関〕

- 夜間・休日等の救急患者の受入体制（オンコール体制）・方針について、病院内で確認・協議し、決定事項を関係機関に周知する。〔胆沢病院〕

（※市・保健所等行政機関は、その決定に基づき関係機関への周知に協力する。〔各行政機関〕

- 胆沢病院における夜間・休日における救急患者について、対応に困る場合には、磐井病院とのホットライン（携帯電話）を活用する。〔胆沢病院〕

- 胆沢病院の「小児医療遠隔支援システム」を救急外来に設置する。〔医療政策室・胆沢病院〕

- 当圏域は小児医療のほか、周産期医療も課題であり、岩手中部・胆江・両磐の周産期体制について議論するため、当該圏域関係者での連絡会議を開催する。〔医療政策室〕

3 岩手中部・胆江・両磐「周産期医療圏」連絡会議の開催（平成31年2月13日開催）

【胆江圏域地域医療連携会議の要望】

- 「胆江圏域においては、産科医療機関の廃止や産科医師等の高齢化等もあり、圏域において産科病院と産科診療所等の連携を図ることが必須であることから、周産期医療圏内の周産期関係医療機関による会議を開催してほしい」

【対応】

- 胆江圏域における周産期医療体制確保が様々な機会に取り上げられる重要な課題となっていることから、医療機関間の連携体制強化、周産期医療提供体制維持・強化を図るため、中部・胆江・両磐周産期医療圏の分娩取扱医療機関等による連絡会議を開催し、対応策等について確認する。

＜参集機関＞

- ・ 地域周産期母子医療センター（産婦人科長及び小児科長・新生児科長）
- ・ 分娩取扱医療機関
- ・ 各二次保健医療圏の郡市医師会
- ・ 中部・奥州・一関保健所
- ・ 医療政策室

【開催結果（確認事項）】※〔 〕内は対応機関

- 各地域周産期母子医療センターは体制維持に努める。〔地域周産期母子医療センター〕〔県〕
- 関係者が全体で周産期医療圏の医療提供体制確保に向けて取り組む。〔全機関〕
- （要望）中・長期的な視野での周産期医療対策を講じてほしい。〔県〕